東濃特別支援学校　ちょキ☆

ちょキ☆とは

「ちょっとしたアイデアで、子どもがキラリ☆」 略して「ちょキ☆」です。

ほんの少しのアイデアで、子どもたちが抱える苦手感を「できた！」に変え、生き生きと学習や生活に向かっていけるように、東濃特別支援学校の先生たちは日々考えています。子どもたちの「キラリ☆」と輝く姿を目指した支援の一部を紹介させていただきます。

●ちょキ☆　一覧（令和４年度）

＜小学部＞

・**「自分から言葉を整理して伝えることが難しい」**　そんなときは…
・**「朝の会の司会や係の仕事をする」**　そんなときに…
・**「お風呂で体を上手に洗いたい」**　そんなときは…
・**「音楽で、歌詞と同じように身体を動かして表現したい」**　そんなときは…
・**「言葉でのコミュニケーションが難しい」**　そんなときは…

＜中学部＞

・**「困ったときや分からないときの対応の仕方が分からず、黙ってしまう」**　そんなときは…
・**「想像したことを言葉豊かに表現したい」**　そんなときは…

＜高等部＞

・**「自分で考えた言葉で文章化することが難しい、白紙の紙に文章を書くのが難しい」**　そんなときは…
・**「掃除のやり方が分からない」**　そんなときは…
・**「物の管理が苦手」**　そんなときは…

小学　部　　２　年　　５　組

指導の場面・行動

質問に対して答えることが難しい児童に対する支援

子どもの苦手ポイント

・自分の意思を、場面に合った言葉でどう表現したらよいか分からない。
・自分から不特定の人に対して働き掛けることができない。

得意を生かす・苦手を乗り越えるポイント

・自分ひとりではできないが、友達について回ることで行動を模倣し、同じように言葉を話す。
・やり方が分かると、同じ場面で動きや言葉を活用できる。
・本児の自発的な発言には確実に反応し、褒める。

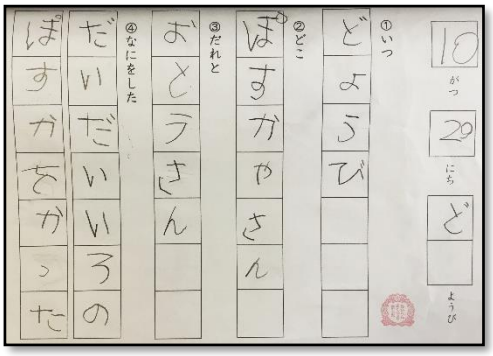
児童・生徒の様子

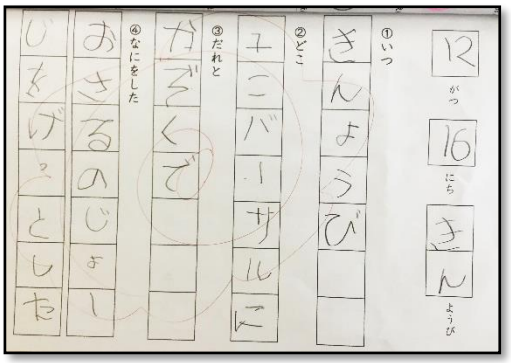
〇どのような時に

・不特定の人でも挨拶をされたら返すように、担任と一緒に反応して習慣化する。
・昼休みに教室から出ていく際、どこへ行くのかを担任に話すようにして習慣化する。
・休日の宿題に簡単な作文を書き、休み明けに作文を用いて経験したことを話す経験を積む。

〇支援前と支援後を比較した姿

・今まで挨拶されても反応しなかった教師に、挨拶を返すようになった。
・自分がやりたいことや行きたい場所を、教師を意識して話すようになった。
・作文を通して、本児が経験した活動が教師に想像できるようになり、本児が答えられるであろう質問を投げかけることができるようになった。その結果、本児が質問に対して反応できるようになり、自信をもって答えられる場面が増えた。また、本児の答えを家族に確認できるようになり、本児が質問を理解して答えていることも判断できた。
・本児が話すことに自信をつけたのか、相手にはっきりと聞こえる声量で話す場面が増えた。





小学部　6　年　5　組

指導の場面・行動

朝の会の司会や係の仕事を行う時の支援

子どもの苦手ポイント

・話をすることに苦手意識がある。
・司会の手順が分かっていない。

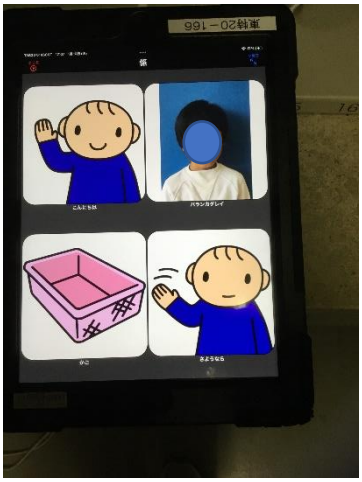
得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・iPad の操作は大好き。
・写真と実物の人のマッチングができる。
・順番にボタンを押すことができる。

児童・生徒の様子

〇どのような時に

・朝の会の司会を一人で行うことが難しい児童が、iPad のボタンを順番に押していくことで、録音されたセリフが出てくるため、司会を行うことができる。iPad アプリのドロップタップを使用する。
・職員室に配付物を取りに行く係活動を行う時に、iPad のボタンを押し「配付物を取りに来ました」等の録音されたセリフを流す。



〇支援前と支援後を比較した姿

・教員と一緒に朝の会を行っていた児童が、iPad を利用することで、一人で司会を行うことができた。教員は指差しの支援のみ行う。
・配付物を取りに、黙って職員室に入室していたが、iPad で用件を周りの職員に伝えることで、仕事に対する責任感や、やり切ったという実感を感じられるようになった。

小学部　4年　5・6組

指導の場面・行動

お風呂での体の洗い方の学習

子どもの苦手ポイント

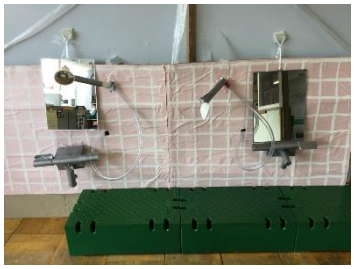
・お風呂の入り方が分からない。
・自分でやる意識が低く、やってもらうことが多い。
・初めての寄宿舎のお風呂ということもあり、初めて体験することに不安がある。

得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・友達と一緒だから受け入れることができる。
・友達の姿から刺激を受け、模倣し、自分でやろうとする。
・見立て遊びができる。
・ほめられたり、できた経験をしたりすると頑張れる。自信がつく。

児童・生徒の様子（写真等）

〇どのような時に



＜場の設定：お風呂の洗い場＞

＜提示：体の部位の確認＞

・お風呂の洗い場を蛇口やホース等再現した。
・身体の部位を確認した。

〇支援前と支援後を比較した姿

・歌を用いることで、自分からその体の部位を洗う姿が見られた。
・友達のまねをしたり、友達に「じょうず」等の言葉を掛けたりする姿が見られた。
・教室で練習することで、実際に寄宿舎のお風呂にも安心して、落ちついて入ることができた。
・学習することで、家庭においても自分で体を洗う、拭く姿が見られるようになった。

小学部　　2年　　6組

指導の場面・行動

音楽　身体表現「くまさんくまさん」　歌詞と同じ動作をする場面

子どもの苦手ポイント

・「片手をあげる」「片足をあげる」等言葉だけの指示を聞いて、その動きをすることが難しい。

得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・イラストに興味がある。
・模倣が得意な児童が多い。
・見通しがもてると、進んで行動することができる。

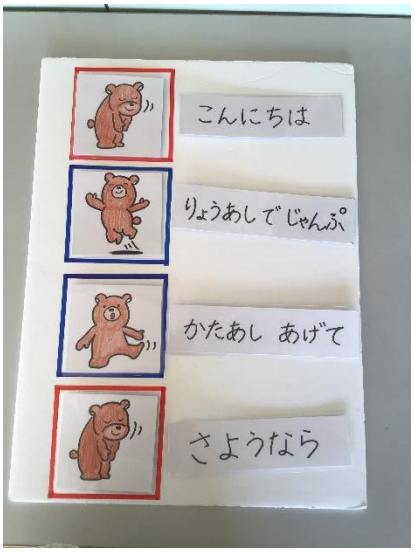
児童・生徒の様子（写真等）

〇どのような時に

・音楽の身体表現『くまさんくまさん』の題材で、「手をあげる」や「片足あげる」等の動きを、言葉だけでなくイラストで提示し、模倣できるようにした。
・動きの種類を増やしていき、いろいろな動きができるようにした。
・自分のやりたい動きを選ぶ場面をつくり、たくさんの中から選ぶ楽しさを味わえるようにした。

〇支援前と支援後を比較した姿

・イラストがあることで、どの児童も歌詞に合った動きをすることができた。
・８種類の中から自分がやりたい動きを選択し、ボードに貼ることができた。



小学　部　　3　　年　　5　　組

指導の場面・行動

言葉でのコミュニケーションが難しく、思いを伝えられない児童に対する支援

子どもの苦手ポイント

・言葉でのコミュニケーションが難しい。
・どのように伝えたらよいのかが分からない。

得意を生かす・苦手を乗り越えるポイント

・イラストを見て理解することができる。
・カードを使用して、思いを伝えることができる。

児童・生徒の様子（写真等）

〇どのような時に

・給食の際に、常に「おかわり」「おいしい」「ごちそうさま」のカードを児童の机上に置いておき、必要な場面で教師に提示して伝える。

〇支援前と支援後を比較した姿

・以前は「いらない」を伝える方法として、お皿からこぼしたり、怒って箸やスプーンを投げたりすることがあった。
・カードを導入してからは、「ごちそうさま」カードを指差して、もういらないことを伝えられるようになった。また、おかわりが欲しい時には、近くにいる先生を『トントン』とたたき、おかわりカードを指差してから、『ください』とジェスチャーで伝えることが定着しつつある。

中学部　　1年　　7組

指導の場面・行動

困ったときや分からないときの対応の仕方が分からず黙ってしまう。

子どもの苦手ポイント

・どのように伝えたらよいのかが分からない。
・伝えることが恥ずかしいと思っている。

得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・言葉で伝えられることが一番だが、言葉が出ず黙ってしまうため、カードを身近な教師に見せるだけでも良いということを伝えた。
・お守りとして持ち歩けるよう、生徒の好きなキャラクターを印刷し、カードがあれば大丈夫と思えるように持ち運びやすい大きさにした。

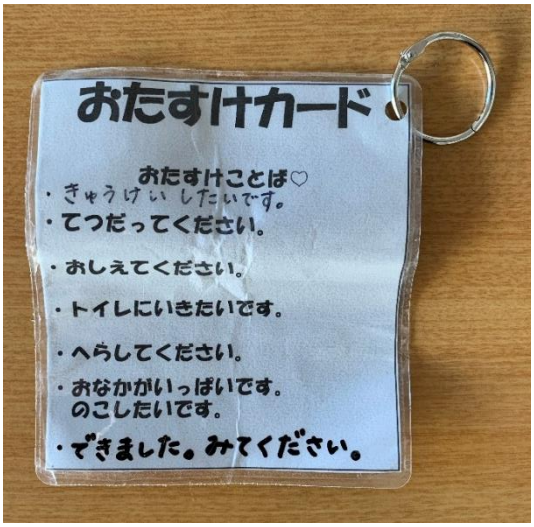
児童・生徒の様子（写真等）

〇どのような時に

・担任以外の職員と活動をするときに学習道具と一緒に持てるようにした。
・伝え方が分からないときにカードを見て、その場に合った言葉を選ぶことから始めた。
・伝えたい教師にカードを見せる→言葉を一緒に探す→言葉で伝える、ということを繰り返し行った。

〇支援前と支援後を比較した姿

・ポケットに入れておくだけで安心するようで、言葉に詰まったときもカードを見るようになった。
・カードに書かれた言葉（分からないので教えてください。／手伝ってください。／減らしてください。／トイレに行きたいです。など）から、自分の要求に合ったものを選択して伝えようとする姿が増えた。
・伝わった経験が積み重なり、カードが無くても伝えることができるようになってきた。



中学部　　1年　　10組

指導の場面・行動

国語「詩の世界」　詩を読み、その詩から自分が想像したことを
言葉豊かに表現したり発表したりする

子どもの苦手ポイント

・発表や表現が苦手で、声を出すことが出来なかったり、固まったりしてしまう。
・想像をすることが苦手で、連想したり、その言葉から何かを感じたり、イメージしたりすることができず、文面のみを答えてしまう。

得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・iPad やパソコンの操作、絵を描くことが得意なので、想像した情景を絵で表すことができないか考えた。また、今後情報機器を活用する場面が増えると予想されるため iPad を活用することができないか考えた。
・iPad 内の keynote を使って、想像した情景に近いものを選び、組み合わせてひとつの絵を完成することができるようにした。また描写機能も使い、自分で描き加えることも可とした。

児童・生徒の様子（写真等）

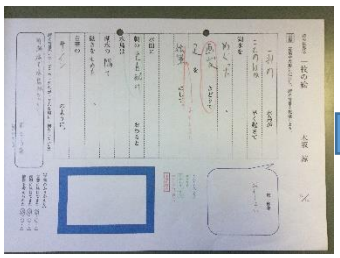
〇どのような時に

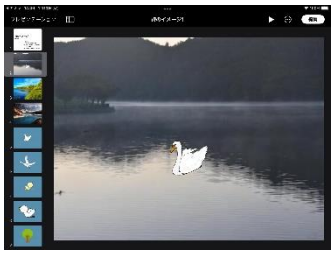
国語「詩の世界」の授業で、想像した情景を発表する時に取り組んだ。気になる言葉を確認した後、それぞれの言葉から考えることのできた情景を一文で表し、その文や自分の想像に合うイラストを、keynote から選んで組み合わせて作成した。

〇支援前と支援後を比較した姿

１時間目

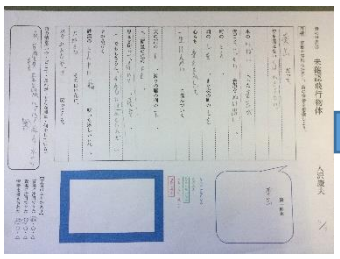
「一枚の絵」
木坂涼

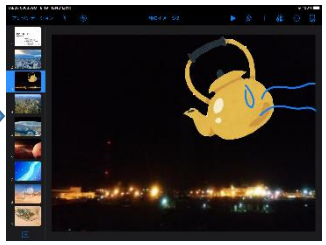




２時間目

「未確認飛行物体」
入沢康夫





・第一印象が一言しかない状態から、情景を想像し、自分の想像に近い絵を選ぶことができた。
・１時間目は、絵を組み合わせているだけだったが、２時間目には、詩の流れに応じて２枚作成し、「息せき切って飛ぶ」という表現から、自分で薬缶に汗を描き足したり、フラフラ飛ぶような線を描き足したりするなど、より具体的に表そうとする姿が見られた。
・同じ keynote の素材を使って仲間と交流したことで、同じ詩を読んで同じ場面を想像しても、人によって違いがあることが明確に伝わった。

高等部　3年8組　国語（Cグループ）

指導の場面・行動

① 自分で文章を考えて書くとき、自分で考えた言葉を文章化しづらい場面での指導

② 白紙のプリントやはがき等に文章を書くことに抵抗があり書き出せないときの指導

子どもの苦手ポイント

① 文字を読み書きすることはできるが、大半の漢字が読めないので、初見の文章だと、漢字かな交じりの文章にはルビを振っておくか、漢字を使わない文章にしておく必要がある。

また、自分の頭の中では書きたいことを考えているが、それを言葉として紙に書くことが難しいようである。

② 文章を書くこと自体は理解できており、記入例の文章を示しても、白紙の紙に文章を書き出すことに抵抗がある。

得意を生かす・苦手を乗り越えるポイント

絵や文字をかくことは好きであり、手本があれば漢字を書くこと自体もほぼ問題ない。

話したことを教師が復唱し、メモとして紙に書き表すと、それだけでは足りないことをさらに話して、考えていることの全体像を視覚的に明らかにする。メモの内容を時系列や順番に番号を振り、罫線を引いた紙に書き、まとまった文章を書きあげることができる。

児童・生徒の様子（写真等）

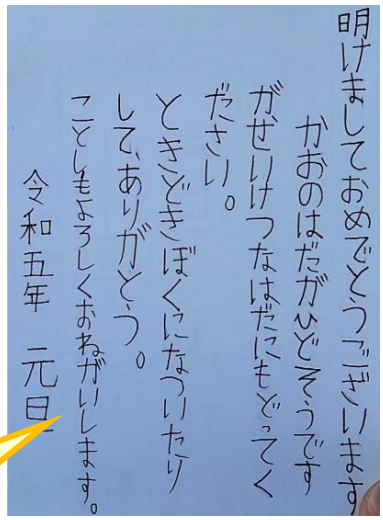
〇どのような時に

① 書きたいことを教師が質問し、それに答える。答えたことを教師が復唱してメモを取ったものを生徒に見せる。

→すると、生徒自ら「あと、・・・。」「いや、・・・。」と、話をふくらませたり言い直したりする。

② 例えば、暑中見舞いや年賀状のはがきを書く学習では、鉛筆で罫線を引いておく。

→すると、抵抗なく文章を書くことができる。



罫線を引いてから書いたはがきの文面。
弟への思いを文章化することができた。

〇支援前と支援後を比較した姿

① 教師からの質問に答えると、考えていることを一つだけでなく、たくさん話す姿が見られた。

たくさんあるときは、教師がメモした言葉の中からいくつか選んで、プリントやはがきに書き表すことができた。

② 普段の授業では、「学習プリント」に枠だけでなく、罫線を引いたものを用意した。

短い言葉でも、罫線を引いた紙には自分で思ったことを書き表したり、はがきに鉛筆で薄く罫線を引いたりすると、はがき一面に文章を書き表したりすることができた。

高等 部　　2 年　　5 組

指導の場面・行動

掃除のやり方が分からない生徒への支援

子どもの苦手ポイント

・雑巾がけをする際に、どこを雑巾がけするのか分からない。
・終わりが分からず不安になってしまう。

得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・本人が馴染みのあるキャラクターを使用したパズルを支援具として使い、パズルが完成したら終わりというルーティンを作った。
・パズルのピースを床に配置し、それを目印に雑巾がけを行えるようにした。
・雑巾がけ→ピースを拾う→台紙に置く→再び雑巾がけというように、雑巾がけの合間にパズルを完成させていく動きを入れることで、少し気分を変えながら続けていけるようにした。

児童・生徒の様子（写真等）

〇どのような時に

〇支援前と支援後を比較した姿

・パズルのピースがある場所めがけて雑巾がけを行い、パズルが完成したら終わりという流れを理解し、本人の中でルーティン化できると、最後まで雑巾がけを頑張ることができるようになった。
・そうじの時間になると、教師の少ない言葉掛けで準備・片付け等もできるようになってきた。

高等部　　1年　　7組

指導の場面・行動

物の管理が苦手な生徒

子どもの苦手ポイント

・忘れ物が多く、持ってきたものをどこかに置いて帰ってしまうことがある。

・持ち帰るべきものを学校に置いて帰ってしまうことがある。

得意を生かす・苦手乗り越えるポイント

・持ち帰るものの写真をいつも見えるところに貼ることで意識付けをする

児童・生徒の様子（写真等）

〇どのような時に

登校・下校のとき

〇支援前と支援後を比較した姿

自ら確認したり、クラスの仲間が「このカードの物をリュックに入れた？」と声を掛けてくれたりして意識付けられるようになってきている。